

内国勸業博覧会

参観道の記

石川理紀之助著

旅程

十月十九日	豊川山田	〃	秋田大町	十一月五日	桑折村	〃	福島町
二十日	秋田大町	〃	戸島駅	六日	福島	〃	安達郡本宮町
二十一日	戸島駅	〃	仙北郡落合村	七日	本宮町	〃	安積郡桑野村
二十二日	落合村	〃	仙北郡生保内駅	八日	桑野村	〃	岩瀬郡須賀川駅
二十三日	生保内	〃	岩手県雫石駅	九日	須賀川	〃	栃木県那須郡芦野村
二十四日	雫石滞在						
二十五日	雫石	〃	盛岡十三日町	十日	芦野村	〃	那須郡大山田村
二十六日	盛岡滞在			十一日	大山田	〃	塩谷郡阿久津
二十七日	盛岡	〃	稗貫郡花巻駅	十二日	阿久津	〃	結城郡境町
二十八日	花巻駅	〃	胆沢郡前沢駅	十三日	境町	〃	東京日本橋着
二十九日	前沢駅	〃	宮城県築館駅	二十一日	小石川	〃	市ヶ谷見分
三十日	築館駅	〃	志田郡広長村	二十二日	音羽巡見		
三十一日	広長村	〃	宮城郡松島村	二十三日	牛込	〃	日本橋巡見
十一月一日	松島村	〃	仙台国分町	二十四日	博览会		
二日	仙台滞在			二十五日	山下博物館		
三日	仙台	〃	柴田郡大川原駅	二十七日	四ッ谷試験場		
四日	大川原	〃	福島県伊達郡桑折村	二十八日	四ッ谷試験場、不忍池		
				三十日	博览会閉場式		

十二月三日	出勤	
四日	出勤、江島、博物館	
五日	出勤、江島	
六日	出勤	
七日	出勤	
九日	出勤	
十日	出勤	
十一日	出勤	
十四日	東京出立、近郷見物	
	旭町	小石川
十五日	小石川	堀内
十六日	堀内	青山
十七日	青山	池上村
十八日	池上村	神奈川
十九日	神奈川	小石川
二十日	小石川	鳩ヶ谷
二十一日	鳩ヶ谷	埼玉郡大場村
二十二日	大場村滞在	
二十三日	大場村	幸手
二十四日	幸手	栃木県小林駅
二十五日	小林駅	安塚
二十六日	安塚	喜連川

十二月二十八日	十二月二十九日	三十日	三十一日	一月一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日
芦野村			瀬の上	関村	上の山	山形	楯岡駅	舟形	乃位	岩崎	六郷	境
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
芦野村	福島県瀬の上	宮城県関村	山形県上の山	山形七日町	楯岡駅	舟形	乃位	秋田県岩崎	六郷	境	秋田大町	

内国勸業博覧会參觀道の記

○ 宿の善印

△ 宿の悪印

秋田県第二課備

同県第一大区十小区羽後国秋田郡下虻川
駅入在山田村千三百五十八番地農

石川理紀之助 三十二歳九ヶ月

明治十年十月十九日 山田村を出立とき両子に。

独ります親の御親につかへませ長居はせずに
我もとくこん

同廿日 午后三時秋田大町二丁目橋本慶助方をたつ。

送別

石川貞直の君うえの仰ごとにて東京へ登らせ
玉ふとき、

かへる日を君がみてこんまつしまの千よへん
斗り久しと思はん
信学

同

思ひきや君と都にいでずして人をそへてや分

んものとは
守孝

おのれ 旧九月十四日なり

種つもの作る学の旅立にうべ稲刈の月ぞたの
しき

守孝橋本父子うし島までおくりきたる。

秋田県庁

晴天秋田駅

△ 秋田郡

△ 川辺郡

牛島 三ッ屋 二ッ屋 二井田 横山 御所野

豊成

戸島駅 ○宿 岡部正蔵

二十一日 雨天

和田駅 石川舟渡 宮崎 神ん内 舟沢 舟岡

合貝

境駅 荒川 山道 川十二ヶ処 落合 境よ

り

二里余、境と上淀川の合より角館に通る
を繋街道と云。

○宿 佐川蔵吉

雨のをやみなきに

みるがうちに木のは流れて谷川のみかさやま
さる秋の夕雨

紅葉をみて

木のははむ鳥ならなくばかくばかりふかき紅
葉の色やみるべき

廿二日 雨天

水沢 これより山道 稲沢 秋田より十二里十

九丁十二間 こごみ 熊堂 山刀泊り

楓 雲然 舟渡あり

角館駅 落合より四里 秋田より十五里二十丁

角館城回 荒川尻

卒田駅 刺巻 舟渡

生保内駅 角館より五里十五丁、秋田より二十一

里七丁

○宿 古村重右エ門

山のもみちをみて

山川の底に紅葉のかげろひて水にも秋の色は
みえけり

霧ふかき秋の山べに吹入て夕日に匂ふ紅葉を
ぞみる

関

荒はてゝ人もとがめぬ関の戸に袖ふきかへす
秋の夕風

通信 第一号

以後番号を付し差出候故、御引合御覽被下度候。
本月廿日豊島村岡部正藏方にて止宿。同廿一日雨
天、境より角館の通路落合村佐川藏吉方にて止宿。
今廿二日角館を経て生保内村にて止宿。終日雨天。
明廿三日は岩手県庁へ着の積り、道中御安慮被下
度候。小泉と山田へ御回被下度候。

生保内村古村重右エ門より。

二十三日 晴天 午后四時より雨降る。

仙岩峠の新道をこえて、こゝはもと国見峠とい
ひし処なるを、明治八年新道を開て仙岩峠と改む。
国見山今日越くれば昨日まで雲と見えしは高
根なりけり

つゞら折のぼる国見の山おろす衣手寒し峯の

篠原

県境 仙岩峠奥山沔の前にあり岩手県の標木あり。

秋田県迄 二十六里三丁五十四間

岩手県迄 九里二町二十六間

生保内迄 二里三丁四十二間
橋場迄 二里二十八丁九間

橋場駅 雫石まで二里十九丁五十二間
雫石駅 ○宿 上野市右ヱ門

二十四日 前夜岩手山に雪降る。雨天
滞在 同処

二十五日 晴天

大釜 上厨川 下厨川 二王

森岡駅 雫石より四里

岩手県庁 旧城主南部信濃守二十万石

城は平城の石垣なり。

十月廿三日の夜始て雪ふる

禁田の稲かり月にみちのくの岩手の山は雪ふりにけり

○宿 十三日町 阿部七太郎

通信第二号

道中無事御安慮奉願上候。本日廿三日生保内出立。仙岩峠を経て岩手管下雫石村上野市右ヱ門に止宿。同夜岩手山満山雪降る。廿四日終日雨降る。農具一見に付同処にて滞在。今廿五日雫石村出立、

岩手県庁え出頭。同処十三日町阿部七太郎にて止宿。明廿六日此地細見、廿七日出立の見込。山田へ植付候落花生拔取、つる付のまま蔵の廊下へ釣置候様奉願候。 十三日町阿部七太郎より
外に加藤・平川両君へ一封づつ差立。

廿六日 滞在 午前晴天 午后時雨

勸業場再見 青物丁松嶋元吉尋ぬる。二見清六を尋ね行。

宿 同処

通信外

番点取詠草

春錦社行

残暑

千町田の早稲穂に秋の見えそめて袖に暑の猶のこりけり

朝貌

常盤なる松にかゝれば朝貌の花もしばしはしほれざりけり

松虫

露しげき尾花交りのやれ垣に人まつ虫の月になくなり

秋興

山里の垣内につくる瓜生まで心のまゝになれる秋かな

契恋

よる浪のあだ名はたてず岩渚のふかき心をたのむ頃かな

樵夫

薪かるしづがおのこに打つれて松実ひろふ子らも行めり

関

あれはてゝ人もとがめぬ関の戸に袖ふきかへす秋の夕かぜ

右

御社中御さはりなくわたらせ玉ふなん。貞直もことなく岩手までまゐりぬ。

旅中国見山のうた

貞直 岩手県より

春錦社御中

二十七日 終日時雨

朝岩手県庁出頭、第二課えも出足届並に礼を申述る。明治橋を渡る。仙北町二見清六にまかりけ

るに、明治橋にて車に乗たる老人に逢たる。宿に尋れば今車にて出たりといふ。

言の葉はかはさざれども玉くしげ二見のうしを一めみしかな

津志田 上野 見る前

△ 岩手郡 紫波郡 高田 二日市

郡山駅 森岡より四里十七丁三十三間

往昔郡代鷹觜筑後守の居城紫波御処と云旧蹟あり。又義家公の陣屋跡ともいふ。

北日詰 南日詰 彰沼 猪渚

△ 紫波郡 稗貫郡

石鳥谷駅 はまん 黒沼 かりや原 宮の目

此辺に好池と云にそばの名物あり。

花巻駅 九里半余

旧城あり、森岡より元と城代と云役員の詰合する処なるよし。

○宿 向町市の川利蔵 野川や

二十八日 晴天

十二条目

△ 稗貫郡 和賀郡 成田 二子

黒沢尻駅 十二里十九丁廿五間三尺

和賀川 八十六間橋

鬼柳 旧南部・旧仙台境

相去 △ 和賀郡

三ヶ尾 △ 胆沢郡

金ヶ崎 伊沢川 舟渡 やわた

水沢駅 伊達某の館跡、仙台の一門

須江 堤尻 中野 折居 中畑 せき

前沢 森岡より二十里四十三間

仙台一門三沢三十の館跡あり。

霧

吹おろす嵐にはれて山本の桧原幽に残る朝きり

折にふれたる

賤のをが粟穂かりほす山畑の麦の若葉に秋風ぞ吹

○宿 太田信次郎

通信三号

本月廿六日岩手県下森岡にて滞在。同処細見。

同廿七日終日時雨。森岡出立、花巻向町市の川理蔵にて止宿。廿八日晴天。向町出立、旧仙台領前沢駅太田新治郎にて止宿。当地明朝出立の積。

十月廿八日 道中無事。

二十九日 晴天

朝立に

旅衣晝かけて行空の山本遠く鶯鳴也

瀬原 金命丸の名物あり。

衣川そこにうつろふ紅は三峯山のもみぢなりけり

秀衡籠城の地桜あり。義経の古館は高館なるよし。木像あるよしなれども未明の為め不見。秀衡三代の旧跡は高館村西の方四丁斗山本に千葉某といへるものにあり。

位牌は

鎮守大將軍藤原秀衡朝臣

鎮守大將軍藤原清衡朝臣

鎮守大將軍藤原基衡朝臣

と三体あり、古きものにあらず。外に秀衡の木像あり。これも古きものにあらず。

高館 △ 胆沢郡

平泉 △ 岩井郡 樋口 山の目 かし町

一ノ関 岩井駅と改む。田村左京大夫三万石の旧城

おにしあへ

県境 岩手県より二十五里二十二丁十間

宮城県より二十二里二丁十三間三尺

岩井駅まで一里二十一丁十九間

有壁まで十五丁九間

有壁 金成 一ノ関より二里七丁五十二間五尺

沢辺 城生野 下宮

筑館駅 仙台より十六里十四丁

△宿 本間屋尚吉

三十日 晴天

高清水駅 二里十五丁余、仙台より十四里

是より田尻に入る。松島街道

高清水の内萱刈村

△ 栗原郡

△ 遠田郡 小松村

田尻駅 一里半余高清水より

市中に涌谷追分あり。舟渡あり。

中坪 青生 舟渡あり。

△ 遠田郡

△ 志田郡

松山駅 小村数々あり。

広長村 筑館村より凡八里余

△宿 家沢助左エ門

三十一日 晴天

広長村の内杉ヶ沢よりしない沼を舟にて渡る。

此沼南宮城、西は黒川、東は志田と三郡の境なり。

△ 志田郡

△ 宮城郡

やす沼 十文字

十文字より東に入る片田道を行石巻街道に出る。これより南に登りとみに登る近道あるよし。

我は手樽村より登る。これより十八丁にして富山観音に至る。

富山観音

東は松島、西はしない沼、北は志田の田面、南は駒ヶ嶽。とみより本と道にかへり手樽村に出て暫くしてあてら坂にて松山道の追分に至る。これより高城に至る。

高城

松島 ○宿 扇屋弥右エ門

家沢某にて

道もなきおどろがおくの柴の戸をたゝくは夜半の嵐なりけり

松島にて

松島やはなれ小島はわだつみの浪にうかべる

心地こそすれ

いかにしてかぞへしらまし松島や島松かげに
残る小島を

松島の浦わの蜃は澄のぼる月の光に秋をしる
らん

詠みすてゝえこそねられぬ松島やをじまの磯
に澄る月かげ

松島の浦つたへしていつまでも身にはかへら
ぬ我心かな

立こむる浦はの霧は吹はれてあらしにすめる
松しまの月

松島の松のみどりはながめてもあかぬ心の色
にさりける

松島や松のけしきの朝な夕なかくるぞあかぬ
印なりけり

松島やくれ行沖にうたふ也舟遊びするかへさ
なるらん

松島の浦わにすめるかげみれば秋の月よもみ
じかりけり

松島の浦わの月に長きよもおきみながらにあ
かしつるかな

松島の浪にうかべるかげみれば月のみふねも

こぐかとぞ思ふ

久方の空行雁も松島や雄じまの磯の月になく
なり

かもめなくをじまはるかに引汐の空にかたぶ
く在明の月

碧海のうたに

まつしまの千々に心をくだきてもおもひよす
べきことのはもなし

十一月一日 小雨

春日 宮城県より四里半、是より塩釜の浦に入
る。

塩釜町 塩釜明神 国幣中社 岩波彦明神

絵図等売る町家あり。

仙台 高清水の本街道は堤通に出る。

国分町 ○宿 菊地平三郎

通信四号

去月廿九日前沢出足。衣川を経て筑館村本間尚
吉にて止宿。廿日晴天同処出立。松山の在鹿島台
家沢助左エ門にて止宿。三十一日富山の観音を詣
で松島村扇屋弥右エ門にて止宿。本月一日小雨、
塩釜野田の玉川末の松山壺の碑を経て仙台国分

町菊地平三郎にて止宿。今日宮城県庁へ出頭、明日当地出足、福島県へ参候積り。

十一月二日

二日 晴天

宮城県庁

旧松平陸奥守旧城須子有明案内にて二課詰試業場巡見。同夜佐伯真満に逢う。

三日 天長節 朝雨、午前九時より晴天

長町駅

△ 宮城県

△ 名取郡

大の田 森常蔵を尋行。

名取川橋 六十間余 二ヶ処

中田駅

増田駅 此駅に衣笠の松とて御幸の節御歌役の板を給ふ。

植杉 本郷

岩沼駅 これより阿武隈川の辺を行く。竹駒明神の祭礼あり。

△ 名取郡

△ 柴田郡
槻木駅 舟迫駅
大川原駅 ○宿 高山庄吉

四日 晴天

金ヶ瀬

△ 柴田郡

△ 刈田郡

宮村 羽前・陸前の追分 子捨川 白石川

白石 齊川 越河

△ 刈田郡

△ 伊達郡

折にふれたる

落ばかく片山里のうなゐ子がふりわけ髪に嵐吹なり

越河迄十丁六間五尺

県境 宮城県迄 十六里十八丁十七間四尺

福島県迄 五里十七丁十五間三尺

前田迄 一里十三丁廿五間五尺

原町 弁慶の硯石、義経の腰掛松の入口あれども西日に付延行。

前田 桑折 ○宿 丸谷惣助

五日 午前晴天

川原町

△ 伊達郡

△ 信夫郡

瀬の上 松川

五十辺 此辺に信夫もち摺石の地あり。石は土

中に埋めてあらず。

一里塚 荒谷 五郎内

福島

福島県庁 官員属岡田寧邦案内。勸業該会、諸

会員の名書を得る。

宿 十二丁目 田中儀兵エ

第五号通信

本月三日宮城県出立。名取川を経て大川原駅高山庄吉にて止宿。同四日晴天、福島県内桑折駅丸谷惣助にて止宿。同五日晴天、福島県庁へ着当地御用相済、明六日出足の積り。大方本日十三日頃着京の見込。道中無事、御安慮可被下候。

十一月五日認め

据衣

から衣打おと寒く残る夜のくぬぎが原に月更にけり

菊

咲そむる賤がかきねの白菊はまだらにおける霜かとぞみる

中村と第二課と通信五号と差立。

六日 晴天

信夫橋 江の目 とやの 伯老 太平寺 伏拝

清水町 浅川 松川

△ 信夫郡

△ 安達郡

吉倉 二本柳 油井町

二本松 丹波左京大夫十万七百石旧城、石垣山城

製糸会社 社長山田修

高越 北杉田 南杉田 馬川

本宮 ○宿 角屋鹿之助

七日 晴天

仁井田 五百川

△ 安達郡

△ 安積郡

高倉駅 安積 日和田 八ッ田山 福原 久保

田大十

郡山駅 桑野村 十二里余 開墾地 石井貞簾
に逢う。宿 太田勇吉

安達が原を尋ねれどしる人なし
きてみれば安達が原は名のみにて人の住処と
成にけるかな

八日 晴天

午前洋器使用見物

小原田 日出山 笹川

△ 安積郡

△ 岩瀬郡

十貫田 名女川 下宿 中宿

須賀川 宿 有馬栄蔵

二本松の製糸釜を見て

たをやめが糸くる術の数々も湯気のちからの
ひとつなりけり

九日 晴天

△ 岩瀬郡

△ 石川郡

たか久田 かがみ沼 笠石 久米石

△ 石川郡

△ 岩城国白川郡

矢吹 中畑新田

大和久 踏瀬 三ツ家 四ツ家 太田川

小田川 泉田 根田 白河 目山

白川の水にかげろふもみぢはにとがめぬ色に
めぞとまりける

白坂 境

県境

(略)

十日

(略)

故郷に遊びし子等をみてしより旅は等のみこ
そうれしかりける

第六号通信

本日六日晴天。福島出立、本宮駅角屋鹿之助方
にて止宿。同七日晴天。郡山駅入在開成山開墾地
桑野村太田勇吉方にて止宿。同八日晴天。須賀川
駅有馬栄蔵にて止宿。同九日晴天。福島県下を越
栃木県下野国那須郡芦野村丸屋寄右エ門にて止
宿。今日は出立十三日頃出京の見込。道中無事、
御安慮奉願候。山田へ虻川にて車用明次第御取寄

廊下へ入置候様奉願。

十一月十日 黒羽ねより差立

芦野より在に入る在道 伊王野 梁瀬

沢の井 稲沢 寒川 黒羽向町

黒羽町 前田 埜土 峠あり 須佐木

大山田村 宿 渋井専右エ門

十一日 晴天

大山田上郷村出立 大山田下郷村 峠を越

健武 馬頭駅 大山田より二里半 駅末より

左に入り畑中の小道なり。

谷田の渡舟、これより左の林道に入る。しばらくして往還に至る。其往還を横にみて又林の小道に入る。

白久村 山道を行鷺子沢に家二戸あり。これを左に見て又山道を行き

志鳥村 山を鞍越に出て上川井村 檜山を越て

△ 那須郡

△ 塩谷郡

喜連川駅 馬頭より四里十三丁余

荒町 羽黒 松山 さくら野 氏家駅

上阿久津駅 きつれ川より三里

川岸宿 土屋幸平

十二日 晴天

阿久津より舟に乗り里程十二里 下総国結城

郡

久保田 上山川 諸川 仁連 長町

境町 宿 中村某にて夕食直に舟に乗る。

十三日 晴天

東京川口迄十三里、本庄通り舟にて

宿 東京日本橋第一大区六小区数寄屋町十七

番地 山本屋 水谷市良左エ門

第七号通信

十一月十日芦野村出立。栃木県管内那須郡大山田村に渋江専右エ門にて止宿。是は東京街道より九里位寄道なり。菰の名産に付尋行。同十一日喜連川へ出て阿久津村土屋幸平にて止宿。十二日境町を経て今十三日東京第一大区六小区日本橋数寄屋町十七番地水谷市良左エ門にて止宿。大方本月中は当府にて逗留の見込。若御用も候はば平川君の方へ御差立奉願上候。道中無事、御安慮奉願。今夕加藤千浪先生尋参候処、昨年類焼后打続病氣

にて即今大病中なれども床の本にて一面会。漸々
詰開のみにて御座候。平川氏へは未だ参不申。就
ては国本の安否も承兼、明日参可申候。

十一月十三日

此書状延引 十三日加藤先生へ参 大病

十四日

加藤先生へ立寄、社中謝錢五十錢指上、夫より
北原先生へ参る。博覧会へ出張、平川君へ参。す
きや町より出立、夕食後神田旭町十四番地甲州屋
藤吉方へ参る。

十五日 晴天

中島着京詰合

十六日 降雨

詰合 愛媛県下第二大区讃岐国三木郡池戸村
勧業係り奈良専二に面会。

十七日 晴天

詰合

十八日 晴天

詰合 午後三時加藤千浪翁卒去す。

十九日

納会へ中島と同行。伊東裕命代理、哥子等来る。

兼題 心静延齡

水車のおともきこえぬ世となればめぐる月日
もしらで経ぬらん

当座 月照雪

ふる雪に月の光のさしはへてよるとしもなき
窓の内かな

あし垣のやつれも雪に埋れて月かげ清き蓬生の宿
当座点取 水島馴舟

蜚舟の行ききになれて水鳥のあたりは浪も
たゝぬなりけり

書籍等買入る。中島へも金立替る。中村より来状。

二十日 晴天

午前美術館前にて賞碑授与式行はる 出席。午
後より加藤先生の葬式に中島と同行。

物外道材居士 明治十年十一月十八日午后八
時卒す。俗名加藤弥三郎千浪。

六大区三小区深川裏大工町二十番地臨川寺徑
成頂巨峰

石田權令公、清岡六属御着京。

二十一日 晴天

平川氏へ行。小石川開口、牛込招魂社、市ヶ谷
辺見分

二十二日 晴天

平川君と中島と音羽辺巡見。清岡様へ参上。

二十三日 晴天

牛込より日本橋通まで巡見。在処と中村君へ一
封差出。芦野の戸村と在処行一封差立。

二十四日 雨天

博覧会へ清岡様と同行。

二十五日

山下博物館一見。直に鳴門氏を訪ふ。

二十六日

島村より巻喜園に逢ひ、直に藤井君に逢ふ。

二十七日

清岡様と同行。四ッ谷試験場へ出る。織田君に
訪行。

二十八日

四ッ谷試験場へ出て米山君と会議へ出席。橋本
某より通信規則入手、米山君へ渡す。不忍池の弁
天にて農学外国人講義聴聞。田中久吉より紬一反
二円七十銭入る。

二十九日

穴山より書籍購入。藤掛重孝を尋ぬる。

三十日

博覧会閉場式拝見。

十二月一日 雨天

休日にて午后まで内に居る。午後清岡様より買
物代金五円入手、宿金三円一銭払。

二日

引渡始む。権令公より御渡被下。茨城材会野村公、陸軍の大山公、近野九等属、松岡宗宿滞糺。

三日

出勤、無別条。

四日

出勤。午後より下り江島の講義へ参る。今日無之穴山へ参り□来木栽培諸本見。書籍館、博物館へ行。

五日

出勤。下りより江島弁天へ講義へ行。奈良より器械入る。代渡す。島村へ物産調遣す。

六日

出勤。島邦氏へ穂遣す。芦野より来状。金二円米山君より入る。原慶三郎より金三十銭入る。

七日 雨天

清岡様へ参る。御売上代金の証と残金返上。別

段金四円当座拝借。穴山より書籍買入る。午后出勤。中村より書状。

八日

中島へ参り同人を以て平川君へ土産の紬一反と印代壺円と立替八十余銭に向け二円渡す。印形受取。中島へ十五銭用立。歌子より詠草と短冊来る。中島来るに手本持参。

九日 雨天

出勤。詠草来る。中島、鈴木の会に行。小泉より為替金二十円来る。夜藤田伊三郎へ尋行。安濃某も来る。中島と同道。

十日

朝馬口労町三丁目幸蔵へ参り、松田栄治え荷物依頼。目形三貫八百目、代壺円七十八銭。出勤か中島へ立寄。帰り中島より鈴木会の短冊八枚と奉書一枚入る。

十一日

出勤、無別事。

下り第一号

本月九日為替切手正に入手仕候。此表御用向も相済、明十三日東京出立仕候間、此段御報知申上候。御点材とも御別条なく何寄の御事と奉恐入候。御登金の義難有奉拝謝上候。荷物は秋田御台処町松内永治と申仁へ相頼、同人は十二日頃此表出立の筈。尤本月中には帰県の事故、右荷物二丁目にて御受取置被下度。事に寄中島氏私より早々帰国に相成候て、同人荷物受取申度義申入候はゞ封を切り同人分丈御渡被下度。此表よりは中島氏未だ出立不申候間、大抵私の帰県の頃ならでは着に相成申間敷と存候。大方一月十日頃の着の見込に御座候。右申上度早々以上。

十二月十二日 東京より

二丁目よりの御状は先日相違難有奉拝見候。

十二日

橋芝の総泉寺にて大山氏の回向をして、亀井戸を回り前田へ立寄直に清岡様へ参上。宿より壱円借用。中村と平川より来状。

十三日

駅逕寮より金二十円為替受取。清岡様へ先日借用の四円返上。落花生の代五十三銭受取。宿へ壱円借用分と五十三銭の落花生の分返弁。下向支度品々買入れ。

十四日 晴天 東京出立

朝清岡と権令公へ参り、栃木山形へ用状受取。旭丁出立。小石川植物園見物。平川氏にて一泊。金子氏も同宿。

十五日 晴天

練馬へ参る。中野を過堀の内にて一泊。宿 蔦屋某。

十六日 曇る

堀内出立。成子村にて胡瓜の養法を承り、内藤新宿北丁藤井氏にて昼食。青山三丁止宿。青山北丁三番地 宿 万年屋新右エ門

十七日

黒沢、織田、藤城、中村へ壱封差立。青山開拓使試験場一号二号並に麻布筭町三号拝見。麻布新

堀丁二番地津田仙へ面会。

池上村 宿 丹波屋治左エ門

十八日 曇り

母の供養を本門寺へ願、十時出立。八幡塚へ出、川崎を経て神奈川にて止宿。

宿 西町 新羽屋源兵エ

二号通信

十四日出立の事に一号は申上候。東京旭町出立致候へども府下近郷見物の為、同日は平川氏にて止宿。十五日大根の名産練馬を経て堀内蔦屋某にて止宿。十六日女瓜の名産成子を経て青山北丁万年新右エ門にて止宿。十七日青山開拓試験場三ヶ処見物、池上村丹波治左エ門にて止宿。同十八日池上本門寺にて亡母の供養致し昼后出立、神奈川西の丁新羽屋源兵エにて止宿。明日は横浜見物、東京に帰り直に帰郷の積り。道中無事、御安慮被下度候。中島は未だ東京在宿に御座候。

十二月十八日

十九日 曇

神奈川出立、横浜まで一里五丁。同処より川崎

へ帰り里程三里二十四丁。同処より大師川原え二十丁帰り、川崎より蒸気にて品川迄十銭里程二里。高輪泉岳寺参詣、同処より……平川君にて止宿。

廿日 晴

関口にて中島に別れ王子参詣 飛鳥山 西の原
十条 赤羽根 岩渕 三里十五丁…… 鳩ヶ谷
宿 栗原治三郎

廿一日 晴天

浦寺 新井宿 石神 北原 戸塚 大門 ……
岩槻 …… 原慶三郎 大凡七里

二十二日 原氏にて滞在。

二十三日

粕壁 梅田の村に入る。在道を通り 杉戸
はら島 上高野 幸手 宿 矢部清次郎

第三号

十九日神奈川出立。横浜見物、大師川原の梨園、泉岳寺義士の墓を経て鳩ヶ谷駅栗原治三郎にて止宿。廿一日葱の名産小溝を経て埼玉郡大場村原

慶三郎にて止宿。廿二日同人開墾地見分の為滞在。
廿三日同処出立。梅田の牛房畑を見て幸手宿矢部
清次郎にて止宿仕候。道中無事、併里程在外尺取
不申。尤栃木県庁を過候へば外に見物の地も無之
候に付、尺取可申と存候。晴天のみにて指たる難
儀無之候。

十二月二十三日

二十四日

内とう間 高次賀 外とう間 貳右エ門新田
栗橋

埼玉・茨城境 渡り 葛飾 利根川

中田 十八丁 静女旧跡 茶屋新田

古河 野木 これより太平山街道に入る。栃木県

道なり。忍川の渡り 下川原 小林駅

大凡八里半 宿 角屋弁治

二十五日

呼子鳥

山本の梢はなれて呼子鳥かすむなはての末に
なく也

栃木県 壬生 安塚 宿 中村広次 凡六里

二十六日

宇都宮 白沢 氏家 喜連川
凡九里 宿 山田屋徳次郎

二十七日

佐久山 大田原 鍋掛 越堀 芦野
宿 丸屋寄右エ門

第四号

本月廿四日梅田を経て栃木県の在小林村角屋
弁次にて止宿。廿五日栃木県庁を経て安塚駅中村
広次にて止宿。廿六日宇都宮に出て喜連川山田徳
次郎にて止宿。廿七日芦野村丸屋寄右エ門にて止
宿。道中無事、御安慮奉願候。帰県は一月十日頃
迄には是非々と存居候。

十二月廿七日 従芦野

廿八日

大凡九里 宿 古川光之助

廿九日

朝雪降る
大凡九里半 宿 角屋鹿之助

三十日 晴天

瀬の上 安達太郎山の寺あり。

九里 宿 松川屋忠吉

卅一日 終日曇

桑折より入る 南半田 北半田 和泉田

小坂 中腹に茶屋あり春村の碑たてり。

境 福島県まで 四里三十二丁四十九間二尺

宮城県まで 十八里二十七丁廿一間二尺

岩城刈田郡 峠越 上戸沢 下戸沢 道悪 瀬渡

さいもく岩あり、新峠あり。

原新田 ならの木新田 関駅

凡そ八里半 最上屋清三郎

明治十一年一月一日 終日雪

同津 峠田 湯の原 干蒲 金山峠

境 宮城県 二十一里二十一丁二十九間

山形県 七里一丁二尺九寸

金山 赤山 檜下 うばふところ みな沢

上関根 中関根 …… 上の山

九里半 亀屋金右エ門

二日 終日曇

四ッ屋 黒沢 松原 片谷地 さろまき 吉原

南たて …… 七日町 足利屋卯兵エ

小滝富蔵に逢同宿。 凡三里。

三日 終日曇

富蔵に別れ …… 天童 老の森 久の下

みたれ川 神町 四ッ屋 六田 宮崎 ……

七里 村川九兵エ

四日 小雨

第五号

去月三十日晴天、瀬の上松川屋忠吉にて止宿。

卅一日曇、宮城県関村最上屋清三郎にて止宿。一

月一日雪降、上の山亀屋金右エ門にて止宿。二日

曇、山形県庁へ出頭。同日虻川村小滝富蔵に逢、

山形七日町足利卯兵エにて同宿。同人も無事にて

旅行に付大島・鑑両君并同人家内へ山田より御伝

言被下度。三日曇、楯岡駅村川九兵エにて止宿。

無事御安慮被下度。大方十日頃は着に可相成候。

当駅より秋田迄五十里。

一月四日

自山形県下楯岡

衣類一通り山田より二丁目迄御届置被下度候。

たも田 …… 本飯田 土生田 尾花沢 萩袋

芦沢 名木沢 舟形

七里 宿 沼沢六兵エ

五日 雪降る

四ッ屋 新庄 泉田 三坂峠 …… 乃位

九里 宿 高橋作右エ門

六日 晴天

ほうき沢 杉峠を越 乃位 一里十一丁

県境 山形迄 二十四里廿一丁四十一間一尺二寸

秋田迄 三十里十四丁四十三間五尺五寸

上院内 一里二十八丁廿三間

上院内 下院内 上馬場 下馬場 横堀

小野 桑が崎 相川 上関 関口 湯沢

新処 杉沢 なる沢 岩崎まで九里余

高橋兵蔵

七日 晴天

古内 十文字 梨木 石成 もち田 横手

金沢 野荒町 六郷 六里半 本郷卯一郎

八日 終日風雪

追分 飯田 大曲 花立 舟渡 神宮寺

新町 刈和野 …… 境

八里半 鈴木多右エ門

刈和野より境まで雪車 二十銭

九日

合貝 舟岡 舟沢 神ん内 宮崎 舟渡

石川 和田 豊島 豊成 御所野 横山

二井田 二ッ家 三ッ家 牛島

秋田大町二丁目橋本氏へ安着。

旅行経費

金五十円	出立の際旅費受取
七円	出立支度金
四十三円	持参
七円二十銭	秋田から東京まで二十四日分の旅費、一日平均三十銭
八銭	旅籠代
五銭	お茶代
八銭	昼飯代
四円八十銭	車馬舟賃、一日平均二十銭の二十四日分
一円	処々名産地尋向の謝礼金
計十三円	支払着京
残三十円	出立まで支出予定
七円	旅籠代
七円	昼飯代
十五円	品々買物、諸方より詔物代
残金は十円以内、五円程度か	
帰りの旅費	
二十五円	必要
十五円	費用

十円 予備
二十円 仕送を小泉に依頼